

中高生医療職の実態学ば

鹿嶋・清真学園 理学療法士が講演

地域医療の担い手育成を目的とした医学セミナーが清真学園（鹿嶋市宮中、飯山克則校長）で開催されている。月1回は外部講師として医療関係者を招いた講演を開催し、医療系の進路を志望する生徒に、最前線の実態を提供している。

同セミナーは2018年1度開放して続けており、本年度2回目の講演は6月22日に行われ、アントラ

イズスポーツクリニックの理学療法士、岩瀬裕亮さん（32）が講師を務め、20人の生徒が出席した。岩瀬さんはまず仕事内容について「けがをしにくい体をつくり、体を薬でいくのが強み」と強調した。

続いて、自身の経験を踏まえ、進学先の選び方や進学後の勉強内容について解説。高齢者が増えていることを背景に、年間1万人ずつ理学療法士が増えていることも明らかにした。さらに就職先が医療・福祉関係だけでなく、行政や企業など幅広いことや、年収についても伝えた。

最後に仕事のやりがいに触れ、埼玉県内の総合病院勤務時代に、何度も手術してはリハビリを続けた患者

が歩いて退院していた場面を紹介。「少しでも良くなった生活を送れるよう手助けができることが一番の魅力」と訴えた。

清真学園中3年の越川優杏さん（14）は「患者さんに寄り添い、信頼関係を築くためのコミュニケーションの大切さが学べた」と語り、鹿島高2年の平野一葉さん（16）は「仕事をずっと続けていくための心構えを知ることができた」と話した。

講演は来年2月まで予定され、今後、臨床検査技師や作業療法士、看護師、診療所の医師らが登壇する予定。（小池忠臣）



出所：2024年7月3日（水）

茨城新聞 地域 鹿行版掲載